

平成31年度 大宅中学校教育について

京都市立大宅中学校
校長 中村季弘

≪ 学校経営方針 >

～ 目指す学校像 ～

- ・子どもたちが、通いたいと感じる学校
- ・教職員が、働きたいと感じる学校（やりがいを感じる学校）
- ・未来を生きていく子どもたちに必要な資質・能力の育成を実践する学校
- ・やりがいを感じる仕事・職場を意識して、「働き方改革」を進める学校
- ・開校当時からの「人、物、時を大切にし、志ある豊かな心を育む」ことは、今後も引き続き大切にしていく。

≪ 学校教育目標 ≫

「人々と協働し、自分の未来を切り拓いていく生徒の育成」

～ 今年度の重点 ～

- 1 学校教育目標を基盤とし、子どもたちの可能性を広げ成長へと導く具体的実践を進める
- 2 保護者、小学校、地域と連携し、「チーム大宅」としての自覚を持って取組む
- 3 職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革に取組む

○資質・能力の育成

- ・協働的に活動する力
- ・課題を見つけ、話し合える力
- ・探求的に問題を解決できる力
- ・規範意識

○生きる力の育成

- ・カリキュラムマネジメントの視点を持ったキャリア教育の充実
- ・道徳科を基にした道徳教育の充実
- ・いじめ防止の取組と人権教育の充実

○実践

- ・自主的・意欲的に取組む活動の実践
- ・つながりを感じた活動の実践
- ・主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践
- ・ノートの有効的な活用を意識した学習指導の実践

- ・生徒の困りに対する確かな支援の実践
- ・さまざまな行事・活動を、協働し成長へつながる取組ととらえた実践

～ 目指す生徒像 ～

○ 他者とのつながりを大切にし、自ら判断し行動できる生徒

～人々と協働する力、自分の未来を切り拓く力～

- 1 笑顔でいさつができる生徒
- 2 他者とのつながりを大切にし、いじめをしない・させない・許さない生徒
- 3 自ら学ぶ意欲を持ち、協働する生徒
- 4 夢や希望を持って未来へ向える生徒
- 5 多様化する未来を切り拓き、夢や希望を持って成長する生徒

～ 目指す教職員像 ～

○ 意欲とやりがいをもって取組む教職員

- 1 専門職としての自覚と誇りを持ち、資質向上に努める教職員
- 2 生徒、保護者に丁寧な対応ができる教職員
- 3 教職員体制“チーム大宅”を意識して行動できる教職員

※生徒や保護者の思いをしっかり受け止め、こちらの考えもきちんと伝えることができる

※生徒たちだけではなく、保護者との人間関係構築にも努める

※自己研鑽、自己変革に取組み、資質向上に努める

※一人で判断するのではなく、「報・連・相」を忘れず行動できる

※「元気ないさつができる 時間を守れる 人の話がしっかり聴ける」に関しては

全校集会、学年集会、生徒会活動等、様々な場面で共通して指導できる

～ その他 ～

1 働き方改革推進校の指定

全教職員が協力して取組む

- ① 時間を意識した働き方の推進・・・通常 20 時閉校を目指に・・・
- ② 業務の効率化
- ③ 業務の精選・適正化
- ④ 毎週水曜の統一時刻閉鎖日を設定

- 2 「中学校英語授業改善」「中学校英語教育の外部機関との連携」研究指定
- ① 小学校外国語科の内容を踏まえ、中学校での授業改善に取り組む。
 - ② 4技能を総合的に育成する視点から、GTEC for student を評価の指標とし、それに基づいた授業改善を進める。
- 3 部活動について
- ① 週当たり2日以上の休養日を設ける。
(平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする)
※大会参加等で活動した場合は、休養日を他の曜日に振り替える
 - ② 長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。

平成31年度 教育課程編成における共通理解

- 1 年間授業時数1015時間の確保
- 50分授業を1015時間実施し、各教科の標準授業時数を確保する。
- 2 主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践
- 3 「カリキュラムマネジメント」の視点に立った具体的な実践
- 4 生徒会活動の活性化
- ① 生徒会本部主催で実施する生徒集会。
 - ② 生徒会本部が、年間を通して取り組む活動。
 - ③ 全校生徒が一丸となって取り組める活動。
を通して、生徒の成長、自己達成感を高める。
- 5 「道徳科」を柱とする道徳教育の充実
- 6 朝の読書指導と終わりの会（終学活）の充実
- 全ての教科に共通する読解力の向上を図るために、「朝の読書指導10分間」の徹底を図るとともに、朝の健康観察などの時間を守って実施する。また、生徒会活動の基本となる学級会活動の「終学活」を学年の共通理解の下、充実させる。